

令和5年2月24日

右田放課後チャレンジ教室

令和4年度 活動概要

右田放課後チャレンジ教室
運営委員長 門田 輝義
コーディネーター野崎 勝美

1. 活動の概要

- (1) 当初計画した33回の活動計画は、初回の6月1日が学校の行事と重なり中止した以外、すべて実施することができた。1学期7回、2学期15回、3学期10回計32回実施した。(3月の3回実施予定を含め) 資料—1参照
- (2) 今年度も新型コロナの感染拡大が続いたが、当教室では直接感染した児童はいなかった。しかし濃厚接触者となったり、学級に感染者が出て予防のため休みをとった児童等が何名かいたので、児童の平均出席率は平年より若干低く93%となり、多少の影響がみられたがほぼ順調に活動ができた。(平年は95~97%) 資料—2参照
- (3) 今年度は参加希望児童が64名と多かったが、3密防止等を考慮し、抽選で40名を選びスタートした。しかし、スタート早々2名が家庭の都合等で辞退したので、追加募集せずに38名で実施することにした。
高学年の参加希望者がここ数年減少傾向にあるので、参加を呼び掛けるチラシを配布し参加を募ったが、結果としては5年生2名の参加にとどまった。6年生は参加者0であった。(1年9名、2年11名、3年5名、4年11名、5年2名 計38名)
資料—5参照
- (4) 今年度は昨年に引き続き、3名の指導員が新しく加入し、指導者は総勢16名となった。毎回平均10~11名で指導に当たってくれた。昨年度、今年度と地域から新しい指導員が加入され、自分の特技などで積極的に講師もやって頂き、指導が活性化してよい雰囲気でおこなわれている。 資料—2参照
(参考 : 指導者=コーディネーター+推進員+指導員)
- (5) 活動の内容は、昨年度とあまり変わりはないが、新型コロナの感染がなかなか治まらず、児童が家庭でも、学校でも屋内活動になりがちなので、チャレンジ教室では、校外(室外含む)での活動をいつもより多く取り入れ気分転換を計った。例えば里山探検、野菜の植え付け・草取り・収穫、サッカー教室、右田の史跡見学・散策、校外施設見学などである。 資料—2参照
- (6) 今年度も貴地域活性化活動助成金および(公財)河村芳邦記念青少年育成財団の助成金

を頂くことができ、それを謝礼として利用し地域の方による音楽、踊り、工作、講話など多くの活動を取り入れることができ、個人レベルであるが地域の活性化にも少しは役立てることができた。(その他、工作材料や栽培材料費にも利用) 資料—4 参照

- (7) 夏休みチャレンジ教室を1週間実施して、主に1学期の算数、国語の復習と少し時間のかかる活動(絵を描く、時間のかかる工作など)を計画しましたが、コロナ感染者が急に増加傾向になってきたので、実施まじかで中止せざるを得なくなった。児童、保護者から期待して頂いていたので残念でした。 資料—5 参照

2. 成果

- (1) 新型コロナウイルスの感染が続くなか、児童は学校でもいろんな行事、活動などが中止、縮小となったり、家庭においても閉じこもりがちで、気持ちが萎えているのではと考え、チャレンジ教室は感染防止対策をしっかりと行い、校外(室外)活動を今までより多く取り入れ気分を晴らして元気に過ごすよう努めた。出席率をみても、児童の感想からも好評で、安全で有意義な放課後の楽しい居場所づくりは十分達成できたと思う。
- (2) コロナ下であったが、熱心な指導員の努力で、児童が興味を持つ色々な分野の活動ができ、計画どおり32回の教室を開校できたことが大きな成果であった。(防府市内の小学校の放課後子ども教室の指導者の集まりがあり、そこで各子ども教室の活動情報交換があるが、われわれの右田チャレンジ教室が年間約30回も教室を開いていることに皆な感心してくれます。これは、我々の働きかけにより、地域の積極的な方々が指導員として参加して、講師になり特技、経験を発表してくれたり、児童との交流や支援をしてくれていることが活動を継続できている一つの理由と説明しています) 資料—3 参照
- (3) 幸いにも2つの活動助成金を頂いたお蔭で、地域の方や外部指導者による工作・スポーツなどの指導、またソラールなどの施設への訪問、サツマイモ苗の植え付け・草取り・収穫など、幅広い活動が可能となり、児童に大変喜ばれ、有意義な楽しい活動が継続できました。 資料—1, 3 参照
- (4) 今年度は初めて保護者の参観を計画し案内したところ、数家庭の保護者が参観してくれました。(今までも、自由に参観してくださいと言ってきましたが、ほとんどありませんでした) 保護者からも期待されていることを強く感じました。地域の活性化の 第1歩が保護者の参加であることに気づきました。

3. 今後の課題

(1) 地域活性化への取り組みについて

コロナ下で地域の諸団体の活動が中止になったり、縮小されたりして、団体同士の交流等が実質中断されている状況です。アフターコロナで、我々のような立場（放課後子ども教室）でどのように地域の活性化に寄与できるか、地域の状況をみて再検討したい。（コロナ鎮静化後、地域の諸団体等の活動がうまく再稼働するか、連携していいのかなど。また、今までとは別の地域活性化の支援方法があるか調べて対応したい）

(2) 高学年児童の教室参加について

参加希望者が主に低学年に偏り、高学年（5，6年生）が少ない傾向が益々強くなってきている。今年度は別途高学年への参加の呼びかけを行ったが効果があまりなかった。アンケートや聞き取りなどをして理由を調べて対策を講じたい。資料—5参照

(3) 異年齢の児童一緒にの活動について

チャレンジ教室の定款には“異年齢の児童との豊かな出会いや---”とあり、低学年、高学年と一緒に学んだり、ふれあうことを目的としているが、実際は低学年と高学年の間には、物事理解度、社会性、体力等に大きな開きがあり、一緒に活動するのが難しい場合や指導するのが難しいことがある。これをどう解決するかを他教室の実情などを調べたりして検討したい。

(4) 活動費の確保

幸い今年度も2団体より活動助成金を頂き、色々な活動をさせて頂いた。来年度も活動資金のほかに、活動のための資材、備品、道具などの補充や、保管用の備品が必要なので、今年度の2団体を含め、他の団体の助成金にも応募して資金を確保するよう努めたい。

(5) 指導役員（コーディネーター、推進員）の補充、交代

一昨年、昨年と指導員の新規加入があり、指導員はある程度確保できているが、指導役員の交代者、補充者がいない。現在の指導役員は初期から8～9年継続して勤めている。新しい発想、考えで教室を運営していくためにも、来年度の改選を機に、新しい人に交代と補充を進めたい。

以上

添付資料

1. 1，2，3学期の活動予定表と実績（実績は2月中旬まで）
2. 参加指導者数、児童数の実績
3. 1，2，3学期の活動報告（写真）
4. 貴助成金の使途と領収書
5. 外部へ出した案内等